

# 令和元年度 多様な新ニーズに対応する 「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン インテンシブコースセミナー

日時: 2019年12月12日(木) 13:00~17:00

場所: 兵庫県立大学 明石看護キャンパス (演習室 406)

テーマ: 第2回 つらさのスクリーニングと包括的評価、地域緩和ケアを考える

(人口30万人の地域でどのように専門的緩和ケアを組み立てるか?)

講師: 木澤 義之先生(神戸大学大学院特命教授)

受講者: 15名

アンケート回収: 11名 (回収率 73.3%)

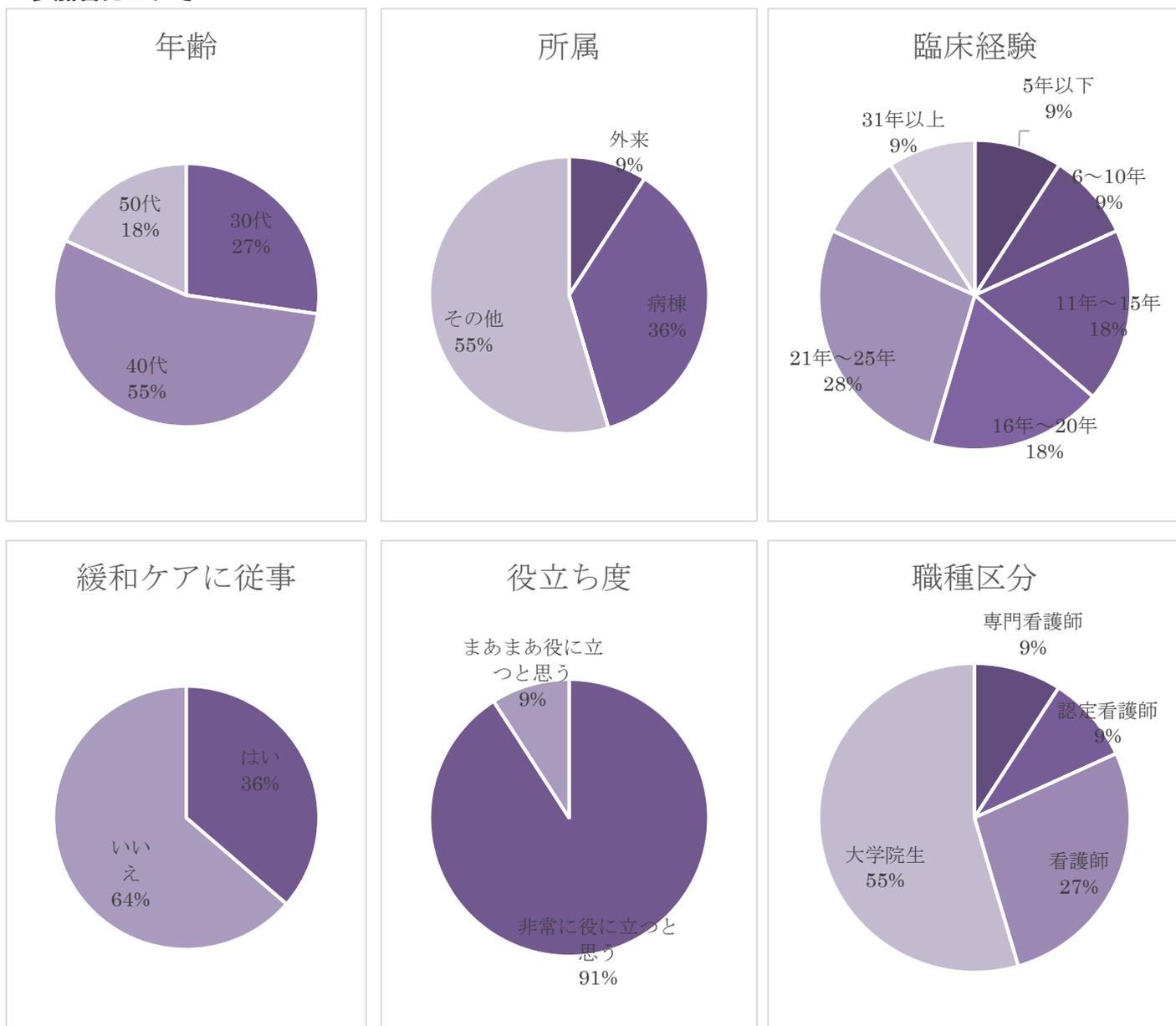
主催: 兵庫県立大学看護学研究科 多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン代表 内布敦子

## <概要>

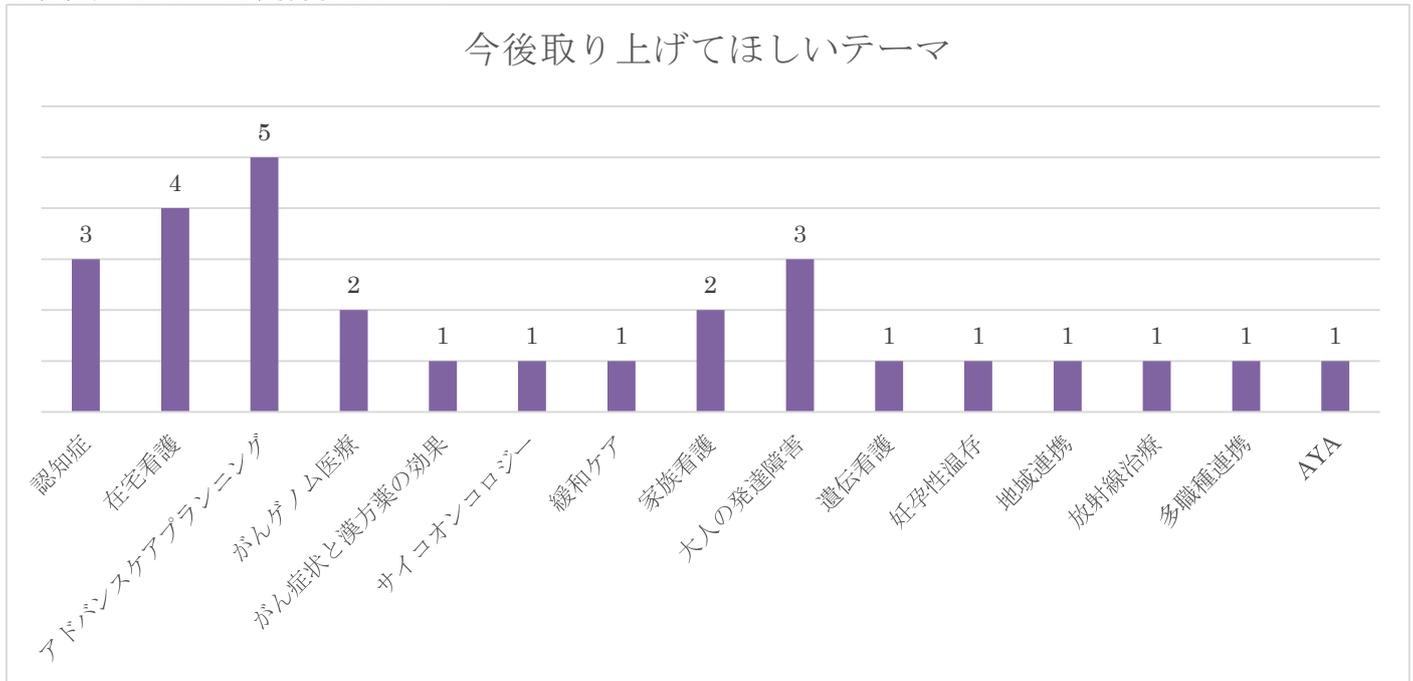
神戸大学大学院特命教授 木澤 義之先生から、救急・集中治療領域における緩和ケアとして、緩和ケアの歴史、日本における課題や、ICUにおける緩和ケアの実際、アドバンス・ケア・プランニングなどについてご説明頂きました。状況に応じた質の高いケアの可能性について、多くのヒントやきっかけを考えることができる時間となりました。

## <アンケート結果>

### ●参加者について



## ●今後、セミナーに期待するテーマ



## ●参加者からのコメントより

### ▼今回のセミナーで、あなたが感じたこと、印象に残ったことがあれば自由にお書きください。

- ・ 普段、自施設の狭い視野の中でしか看護していないことがよくわかり、勉強になりました。グローバルな視点でしかも臨床の疑問にも答えて下さる内容でとても刺激を受けました。
- ・ スクリーニングとは、共通のものでは意味がなく、その地域施設独自のものを作り上げていかなければスクリーニングとしては機能しないことを学びました。また、スクリーニングを受けた人にメリットがあるものでなければならないということも学びました。
- ・ 組織の特徴にあったスクリーニングを行うことが大事。
- ・ 専門的緩和ケアの柱はコミュニケーションとコーディネーション。
- ・ 専門的緩和ケアを受けているがん患者は3割(在宅別)。
- ・ 緩和ケアチームの介入評価について悩んでいるので勉強になりました。”
- ・ 日本の緩和ケア、世界の緩和ケアの現状について詳しく知ることができた。文献を多く紹介していただき、ためになりました。
- ・ スクリーニングのあり方を根本から考えて、関係者で当院にあったものに作りかえていきたいと思いました。
- ・ コミュニケーションをとるタイミングのきっかけを知ることができました。
- ・ 緩和ケアスクリーニング、患者全員対象への取り組みは今後の高齢社会で必要な取り組みと感じました。
- ・ 地域での在宅緩和ケアの構築のための仲間作り。
- ・ SICPの動画が非常に良かった。
- ・ 世界での最新の情報を得られた貴重な時間でした。

### ▼がん患者の緩和ケアにおいて、今、最も強く感じている課題をお書きください。

- ・ 意思決定支援。標準治療修了後の選択肢がかなり増えているため、どこまでどこで治療するか意思決定、ACP や今日の SICP のお話の聞き方等をスタッフにどれだけ浸透できるか、また、Pt、医師と他職種とだけ一緒に話し合えるか、現状けっこう難しいと感じている。
- ・ 個人と向き合ってその人にとって本当に必要とされるケアとは何かについて考え、個別性のあるケアを行っていくこと

- ・分子標的薬やゲノム医療の出現で予後の見通しがつきにくくなった。患者も治療に希望をつなぎ続けることもあり、最悪に備える話し合いが以前より難しくなったと感じる。
- ・高齢者がん患者の意思決定に関して本人の力を引き出したり、補ったりしつつ意思決定につなげていくスキルが臨床現場に不足している
- ・地域、病院、施設で、ACP がつながっていないこと
- ・システム、人材育成に課題を感じています。
- ・ACP が重要だがなかなか難しいし、記録に残っていないことが多い。

#### ▼その他感想

- ・こうして勉強会に参加する楽しさを感じ、感謝しています。
- ・大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・慢性疾患の ACP に興味があります。患者さんは病院、在宅、介護施設等療養場所を移行されるので、療養場所移行時に「大切にされていること」等、SICP で得られた情報を共有できるとよいと思うが、患者さんの誰に知ってほしいかということも考慮が必要だと思う。

